

台灣紙「自由時報」自由廣場掲載（3月21日）

台灣中立化 有害無益

かわむら
すみひこ
川村 純彦

本稿は、三月二十一日付「自由時報」の「自由廣場」欄に掲載された川村純彦氏による投稿記事である。前掲の小田村四郎会長声明「台湾の平和中立宣言について」の解説で述べたように、日本戦略研究フォーラム理事もつとめる本会の川村常務理事（現・副会長）は、呂秀蓮・元副総統らが提案した「台湾和平中立宣言」についてその経緯とともに問題点を記している。ここに、日本語の原文「台湾の中立化主張は有害無益」も併せて掲載する。（編集部）

呂秀蓮前副總統、蔡明憲前國防部長、張旭成前國安會副秘書長一行訪問

日本、於二月廿三日在本人所屬的「日本戰略研究論壇」中宣講「台灣和平中立宣言」。由於事前我們沒有被告知要談「中立化」一事，所以我們在當日只是傾聽呂氏發言，沒有對此構想表示明確的贊同或反對。



台灣和平中立宣言に言及する呂秀蓮・元副総統ら（写真左から、呂氏、通訳、蔡明憲氏、張旭成氏、2月23日、日本戦略研究フォーラム）

數日後、我們看到呂氏、蔡氏、張氏在所發表的論文中提到本論壇「樂見台灣的獨立與中立」，也表示日本各界支持其中立化之構想，對此我們深感受外。在此我們必須澄清，當日我們完全沒有任何支持台灣中立化的表示。事實上，我們認為台灣的中立化不僅不實際，也與日美在亞太地區安全防衛上的戰略相左。

首先，台灣雖事實上獨立，但中國對台灣的領土野心及對附近海域的霸權主張才是台灣最大的威脅。我們認為扼止中國對台灣的侵略企圖，才是台灣的當務之急。

台灣只有在已成為國際社會所承認的法理主權獨立國家後中立才可能成為選項，但即或如此，中立也不是自己一國可以決定的。中立必須得到關係諸國的承認。對此，我相信中國及周邊國家同意的可能性都相當低。

此外，中立後包括抑止核子攻擊的軍備必須完全由自己一國承擔，其國防經費與人民的負擔將大幅增加。台灣如

果脱離美國の核子保護傘，那麼台灣是
否有核子武裝的準備？ 如果沒有，那
麼要依賴什麼來防止他國的核子武器
攻？

台灣位處連結日本列島—沖繩諸島
—台灣—菲律賓、越南的第一列島線の
要衝，也是扼止中國擴張其海洋霸權最
重要的戰略據點。所以台灣的去就直接
影響亞洲太平洋地域の和平與安定。不
僅日美兩國，所有民主自由國家對此地
域安全保障上都有著相當程度的關心。

台灣能造成此安全保障上的空白？

台灣應該努力的方向是積極爭取參
與此地區的集團安全防衛，以保障現在

的實質獨立地位。同時也爭取國際社會

的支持以達到法理獨立的目的。這條路

雖然艱難，但只要要有維護民主自由與自

國領土主權完整的決心與勇氣，台灣必

將贏得全世界的尊敬與支持。

然而，在中國仍是一個擴張軍力的

獨裁國家之時，主張中立不僅對台灣有

害，也無法得到美日的支持。此不顧亞

太地區安全保障的偏安心態，不只會讓

台灣失去友人的尊敬，也可能為台灣帶

來更大的危機。

（作者為日本海上自衛隊退役少將，

日本戰略研究論壇理事，本文由林建

良翻譯）

台湾の中立化主張は有害無益

〔日本語原文〕

かわむら
すみひこ
川村 純彦

最近、呂秀蓮前副総統、蔡明憲前國
防部長、張旭成前国安会副秘書長一行
が日本を訪問し、二月二十三日に私が

所属する「日本戦略研究フォーラム」
において「台湾と和平中立宣言」につい
て講演した。事前に我々は「中立化」

について話し合うとは知らされていな
かったので、当日は呂氏の発言を聞いて
ただで、この構想について明確な賛
同あるいは反対を表明しなかった。
数日後、我々は呂氏、蔡氏、張氏が
発表した論文において、本フォーラム
が「台湾の独立と中立を歓迎した」と
され、日本各界がこの中立化構想を支
持しているとされているのを目にし
た。これについて、我々は非常に驚い
た。ここにおいて我々は、当日、台湾
中立化について支持すると表明してい
ないことを明らかにしないわけにはい
かない。実際には、我々は、台湾の中
立化は現実的でないのみならず、日米
とのアジア太平洋地域における安全防
衛上の戦略と矛盾すると考えている。
まず、台湾は事実上独立しているが、
中国の台湾に対しての領土的野心およ
びその近隣海域についての覇権の主張
こそが台湾にとって最大の脅威である。
我々は中国の台湾に対する侵略の意図
を阻止することこそ台湾にとって当面

の急務であると考える。

台湾は国際社会に承認された法的にも主権が独立した国家となつてはじめて、中立が選択肢となるが、仮に、そうなれたとしても、中立というのは一國で決められるものではない。中立には関係諸国の承認を得ることが必要である。これについて、中国および周辺国家が同意する可能性はかなり低いと私は信じるものである。

このほか、中立後は、核攻撃を抑止する軍備を含め、完全に自国で引き受けなければならず、その国防経費および人民の負担は大幅に増加するであろう。台湾がもし米国の核の傘のもとを離れるのであれば、台湾は核武装の用意があるのだろうか。もしそれが無いならば、他国からの核攻撃をどうやって防止するのだろうか。

台湾は、日本列島―沖縄諸島―台湾―フィリピン―ベトナムを結ぶ第一列島線の要衝に位置し、これは、中国が海洋覇権を拡張するのを阻止するため

に最も重要な戦略拠点である。したがって台湾の去就は直ちにアジア太平洋地域の平和と安定に影響を与える。日米両国のみならず、すべての民主的で自由な国家が、この地域の安全保障に相当な関心を寄せている。この状況で、台湾は安全保障上の空白を作りだしてよいのだろうか。

台湾が努力すべき方向は、この地域の集団安全保障に参加することを積極的に求め、これによって現在の実質的に独立している地位を保障すること

である。また同時に、法理的独立の目的を達成するために国際社会の支持を求めることである。この道のりは簡単ではないが、民主自由および自国の領土の完全性を守る決心と勇気さえ持てれば、台湾は必ずや全世界の尊敬と支持を勝ち取ることが出来るであろう。

しかるに、中国が軍事的拡張を行う独裁国家であるのときに、中立を主張することは台湾にとって害があるのみならず、米日の支持を得ることが出来ない。アジア太平洋地域の安全保障を顧みず、辺境に安んじるようなこの態度は、台湾をして、友人の尊敬を失わせるのみならず、台湾にさらに大きな危機をもたらす可能性がある。

【編集部注】川村氏の投稿が「自由時報」に掲載された三月二十一日、呂秀蓮氏たちは台北市内において「台湾和平中立大同盟」主催による「認識中立國」と題したシンポジウムを開催したが、投稿は中立国化論を鎮静化させる役割を果たす結果となった。



中立化の話は事前打ち合わせになかったため聞くだけに止めた進行役の川村氏（写真左。2月23日、日本戦略研究フォーラム）